

特定非営利活動法人 日本バイオインフォマティクス学会
第 25 回理事会議事録

日時 2021 年 9 月 24 日(金)13:00～17:00
場所 オンライン
出席者 五斗進理事長・幹事、山西芳裕副理事長・地域部会長、岩崎渉理事・幹事、大上雅史理事・幹事、大林武理事・幹事、鎌田真由美理事・幹事、木下聖子理事、佐藤健吾理事、清水謙多郎理事、松田秀雄理事、武藤愛理事・幹事、浅井潔理事、有田正規理事・幹事、尾崎遼理事・幹事、清水佳奈理事、白井剛理事・幹事、竹本和広理事、福永津嵩理事
(表決書提出) 荻島創一理事・幹事
以上 19 名出席扱い

オブザーバ 松井求監事、根本航監事、浜田道昭幹事、笠原浩太幹事、松本拓高幹事、齋藤裕幹事、奥田修二郎幹事、水口賢司幹事、池松真也地域部会長、事務局総務牛山絵美子

議長 五斗理事長(定款 35 条による)

配布資料

議事次第

(審議事項参照資料)

別紙 s1 理事会審議事項

(報告事項参照資料)

別紙 h1 年会幹事 2021 年年会準備状況について、他

別紙 h2 会計幹事 2021 年度中間会計報告

別紙 h4 研究会幹事 開催済研究会報告

別紙 h6 JSBi Bioinformatics Review 幹事報告

別紙 h7 ダイバーシティ推進幹事報告

別紙 h8 ISCB 幹事報告

別紙 h11 連携幹事報告

別紙 h12 広報幹事報告

別紙 h18 総務報告、メール審議議事録

別紙 h26 公募研究会開催報告(第 30 回バイオメディカル研究会、質量分析インフォマティクス研究会、第 3 回幹細胞情報学研究イニシアチブ研究会)

五斗理事長、山西副理事長より第 25 回理事会開催にあたって挨拶があり、議事録署名人として尾崎理事、山西副理事長が指名され、満場一致で承認された。

議案

〈審議事項〉

第 1 号議案 OJP 選考規定の変更の承認

大上幹事より、別紙 s1 を基に「Oxford Journals – Japanese Society for Bioinformatics Prize 選考規定」について以下の通りに改正したい旨が説明され、これを議事に諮ったところ、出席した会員の議決権の過半数を持って異議なく可決決定された。

【旧】

第9条 この賞の受賞者には賞状、副賞として賞金三万円、当該年度の翌年の Bioinformatics 誌無料購読の特典、当該年度の翌年度の年会費免除の特典が与えられる。

第 11 条 第9条の賞金および Bioinformatics 誌無料購読の特典は Oxford University Press からの寄付金及び無償で提供されるサービスに基づきこの法人が運営する。

【新】

第9条 この賞の受賞者には賞状、副賞、および当該年度の翌年度の年会費免除の特典が与えられる。

第 11 条 第9条の副賞は Oxford University Press からの寄付および無償で提供されるサービスに基づき、この法人が与える。

〈報告事項〉

【各幹事、会長、総務からの報告】

1 年会(木下賢吾幹事、浜田幹事(2021 年年会長)、水口幹事(2022 年年会長))

浜田幹事より別紙 h1 に基づき、2021 年度年会準備報告があった。今年度は Gather (バーチャル空間サービス) と Zoom を利用したオンサイトに近い形式で開催を試みることが報告された。また、水口幹事より、2022 年度年会を 2022 年 9 月 13 日(火)～9 月 15 日(木)にかけて千里ライフサイエンスセンター(大阪府豊中市)にて開催を計画していることが報告された。五斗理事長より、2022 年度年会事業計画については、来年 3 月に開催される理事会にて報告することが確認された。加えて、2023 年年会長については、木下理事に後日確認することとなった。

なお合わせて、浜田幹事より、「バイオインフォマティクスシリーズ」の出版を予定していることが情報共有された。

2 会計(大林理事・幹事、笠原幹事)

大林理事・幹事より、別紙 h2 に基づき、会計の中間報告があり、問題なく執行されていることが報告された。また、今年度より年会会計を中心に運用を開始したネット銀行(GMO あおぞらネット銀行)において、海外からの送金に対応していないことが報告された。

3 認定試験(有田理事・幹事・認定試験委員長)

有田理事・幹事・認定試験委員長より、2021 年度のバイオインフォマティクス技術者認定試験に関する報告があった。特に、CBT 方式(Computer Based-Testing)に移行したことから、2020 年度から試験問題を公開しなくなったことが報告された。また、本認定試験の国家資格化を進めており、バイオインフォマティクススキル標準の策定について他学会と連携していることが報告された。白井理事・幹事より、「バイオインフォ

マティクス入門」(日本バイオインフォマティクス学会編、慶應義塾大学出版会)の改訂版出版に向けて準備を進めており、1回目の印税は執筆者への謝金に当てることが報告された。

4 研究会(岩崎理事・幹事)

岩崎理事・幹事より、別紙 h4 に基づき、公募研究会の開催報告があった。オンラインによる研究会開催が中心になり、交通費がかからなくなったため、現在公募一回あたり 25 万円となっている予算を減額する方針を進めていく旨が報告された。

5 ニュースレター(尾崎理事・幹事、松本幹事)

尾崎理事・幹事より、日本バイオインフォマティクス学会ニュースレター第 40 号が 2021 年 8 月末に発行されたことが報告された。長井陽子先生の追悼文を掲載したこと、特集を「バイオインフォマティクスの人の本棚」としたことが報告された。

6 JSBi Bioinformatics Review(尾崎理事・幹事、松本幹事)

松本幹事より、別紙 h6 に基づき、JSBi Bioinformatics Review に関する報告があった。特に、2021 年 10 月に次号を発行予定であることと、今回より、入門的な内容を扱う「Primer」セクションを新設したことが報告された。日本語総説論文、あるいは、Primers の執筆希望者や推薦者を常時募集していること、また、査読依頼の際には協力して欲しい旨のお願いがあった。

7 ダイバーシティー推進(武藤理事・幹事)

武藤理事・幹事より、別紙 h7 に基づき、ダイバーシティー推進に関する活動報告があった。特に育児休業制度の問題点について以下の通りの情報共有とお願いがあった。

令和 3 年 6 月 9 日公布の改正育児・介護休業法にて、有期雇用労働者が育児・介護休業を取得できる要件の一つ、「事業主に引き続き雇用された期間が 1 年以上である者」が廃止されたため、任期付研究者も着任初年度から育児休業を取得できるようになり、若手研究者の出産のハードルが軽減されることとなった。しかしながら、労使協定では、「事業主に引き続き雇用された期間が 1 年以上である者」以外を対象外とすることが可能となっており、今までの育児休業規程にならった労使協定を締結してしまう可能性がある。そのため、労務担当者・労働者代表者には労使協定での撤廃を働きかけてほしい。

8 ISCB(岩崎理事・幹事)

岩崎理事・幹事より、別紙 h8 に基づき、ISCB(International Society for Computational Biology)に関する報告があった。特に、2024 年 10 月に InCoB、GIW、APBC、ISCB-Asia が合同でアジアで大きな会議を開催する計画があり、その第一回目の開催を日本で行うことについて、JSBi としてサポートすること、2024 年年会とジョイントすることについて提案があり、引き続き議論することとなった。

9 若手(大上理事・幹事)

大上理事・幹事より、今年度の Oxford Journals - Japanese Society for Bioinformatics Prize の候補者が 2 名であったことが報告され、今後も引き続き積極的な受賞候補者の推薦のお願いがあった。生物物理学会

との連携を進めていることが報告された。

10 渉外(浜田幹事)

浜田幹事より、賛助会員にアンプラット株式会社が加わったことが報告された。

11 連携(荻島理事・幹事、鎌田理事・幹事)

荻島理事・幹事より、別紙 h11 に基づき、学会連携に関わる報告があった。特に、今年度から生物科学連合を鎌田理事・幹事が担当することになったことが報告された。

12 広報(齋藤幹事)

齋藤幹事より、別紙 h12 に基づき、広報に関する報告があった。特に、2021年 3 月からリニューアルされたホームページのバグ修正とアクセス数について、また、2022 年度の年会 Web サイトを Wordpress にて作成したことが報告された。さらに、バイオインフォマティクス研究室検索の改善を引き続き続けることが確認された。

13 人材育成(有田幹事、白井理事・幹事)

特に報告はなかった。

14 活性化(奥田幹事)

奥田幹事より、教育素材に関する動画のリンク集作成について検討していることが報告された。

15 個別化医療推進(木下賢吾理事・幹事)

特に報告はなかった。

16 Genome Informatics(五斗理事・幹事)

特に報告はなかった。

17 会長補佐(岩崎渉理事・幹事、木下賢吾理事・幹事)

特に報告はなかった。

18 総務報告(岩崎理事・幹事)

岩崎理事より別紙 h18 に基づき、会員数等の基本情報について報告があった。特に、会員が800名を超え、記録史上最多となったこと、年齢は 20 代から 40 代で6割を占めており、若い世代が増加しつつあることが報告された。また、理事メール審議議事録(2021年 3 月～9 月)について報告があった。

19 会長(五斗理事長)

生命科学と機械学習に関する書籍執筆の企画があり、日本バイオインフォマティクス学会監修としての出版について検討したい旨が報告され、引き続き検討することとなった。また後藤先生からの寄付金につい

て若手への賞金に当てる案があがり、引き続き検討することとなった。

【地域部会長からの報告】

- 20 北海道地域部会(遠藤地域部会長)
特に報告はなかった。
- 21 東北地域部会(木下地域部会長)
特に報告はなかった。
- 22 関西地域部会(鎌田地域部会長)
鎌田地域部会長より今年度後半に開催を予定している関西地域部会について、資料共有を行う予定であることが話された。
- 23 中国・四国地域部会(森田地域部会長)
特に報告はなかった。
- 24 九州地域部会(山西地域部会長)
特に報告はなかった。
- 25 沖縄地域部会(池松地域部会長)
池松地域部会長より、9/25 からバイオインフォマティクス人材育成講座(沖縄県委託事業)をスタートする旨、受講登録者数が 100 名を超えていることが報告された。
- 26 公募研究会報告開催報告
報告に代えて、開催報告資料が配布された。

以上

以上により議事が終了し、議長は 17 時 00 分閉会を宣言した。

上記の議決を明確にするために、議長および議事録署名人において次に記名押印する。

2021 年 9 月 24 日

特定非営利活動法人日本バイオインフォマティクス学会

理 事 長 五斗 進 印

議事録署名人 山西 芳裕 印

議事録署名人 尾崎 遼 印